

修身に残らなかったグリム童話

—樋口勘次郎の『修身童話』をテキストに—

坂本麻裕子

キーワード 樋口勘次郎、『修身童話』、ヘルバルト教育学、修身教育、グリム童話

1. はじめに

近年の資料整理によって、グリム童話の受容が教育方面から始まったことが明らかになりつつある。¹特に明治20年代後半では、日本の学校教育に影響を与えたヘルバルト派の教科書を經由したグリム童話の受容があった。しかし、受容史全体を概観すると、グリム童話は最終的に初等教育の教科書ではなく家庭の読み物として受け入れられることになった。²

イソップ物語や日本昔噺が修身の教科書に採用されたのに対し、なぜグリム童話は学校教育に残らなかったのだろうか。この点を探るため、グリム童話を学校の修身教材とした『修身童話』の考察を行いたい。これは、樋口勘次郎（1871～1917）が1898（明治31）年から1901（明治34）年にかけて9巻まで出版したものである。³各巻で日本昔噺とグリム童話が併載され、注に徳目が付けられている珍しい試みの本であるにもかかわらず、教育学史の観点から、又、グリム童話の受容史の観点からも深い考察が行われてこなかった。

そこで、『修身童話』の種本となったヘルバルト派の『小學校 教授の實際 第一學年の部』を分析し、樋口の日本昔噺とグリム童話を比較する。本論の考察から、修身に残らなかったグリム童話の所以を明らかにしたいと考える。

2. 『修身童話』の位置付け

2-1 『修身童話』に関する先行研究

樋口勘次郎の『修身童話』は『児童文学翻訳作品総覧 第四巻（フランス・ドイツ編2）』で全巻の確認が終わり、グリム童話の受容史に新しく記載された文献である。⁴先行研究に、府川源一郎の論文「樋口勘次郎と『修身童話』」と

「樋口勘次郎とグリム童話」がある。⁵「樋口勘次郎と『修身童話』」は、当時未確認であった『修身童話』を紹介した論文である。序文と各巻の内容、叢書成立の経緯を紹介している。後者の「樋口勘次郎とグリム童話」は、『修身童話』を教育学的な視点から論じたものである。ヘルバルト主義の影響について触れられ、樋口の語彙調査やお話調査にも言及している。これらは『修身童話』を取り上げた点で重要だが、修身科の教科書としてグリム童話を扱ったという視点での内容分析が行われていない。

グリム童話受容史の中でも『修身童話』は明確な徳目や教訓をつけている点で修身教育と密接に関わった特異な文献である。どのような解釈によって日本昔噺とグリム童話が選ばれ、また、樋口がグリム童話をどう利用しようとしたのかという問題が解決されていない。本論では、この問題を論じたい。

2-2 当時の修身教科書に関する先行研究

明治18年、森有礼が初代文部大臣となり、教育界にドイツのヘルバルト主義が導入された。ヘルバルト主義の教育目標は倫理学にあり道徳的品性を形成することにあった。こうした流れを受けて、『修身童話』は修身という教科の下にグリム童話や日本昔噺を位置付けている。当時の修身教科書の実態については、海後宗臣によると以下のようであった。

教育勅語渙発後に於ける小学校の修身教科書には、その編纂より見て二つの時期に劃することが出来る。その一つは、明治二十六年ごろより三十年代の初めに至る迄の時期であって、教育勅語に拠る徳日本位の編纂がなされていた時代である。次の時期はヘルバルト派の教育思潮によって、修身教授の方法に一つの傾向が現われ、それに応ずる為に修身教科書が改訂された時期である。その時期に於ける修身教科書を、人物伝記主義の編纂に依るものと称している。⁶

教育勅語による徳日本位の編纂からヘルバルト派の教育方法論へと変わろうとしている狭間の時期に、樋口の『修身童話』は位置している。ヘルバルト派は、童話から徳目を引き出していく方法と伝記による修身教授という方法を打ち出し、徳日本位で意図的に作った物語を利用する方法を批判した。つまり、『修身童話』は、ヘルバルト派の童話を利用する方法を日本で実践しようとした初期の出版物だと言える。

3. 『修身童話』

3-1 修身童話の意図と価値

樋口勘次郎は1900（明治33）年から3年間留学したため、第7巻から第9巻は湯本武比古による日本昔噺とグリム童話翻案となる。ここでは、『修身童話』発案者である樋口の名前がある第1巻から第6巻までの序に焦点を絞り、分析を行う。⁷

まず、樋口勘次郎はどういう意図で『修身童話』を出版したのか。『修身童話』第1巻に掲載された樋口の小引から、『修身童話』の編集には二つの目的があることが分かる。⁸一つは昔噺を使用して家庭と小学校における修身教材とすること、二つ目に綴字法の普及に貢献することである。⁹一つ目に挙げられた昔噺を利用して修身教材を作るという方針は、樋口勘次郎にとって『修身童話』編纂の大きな柱であった。先行研究でも既に指摘されているように、これは樋口勘次郎の発想ではなく、ヘルバルト派のツィラー（Ziller, T. : 1817～1882）やライン（Rein, Wilhelm : 1847～1929）がグリム童話を教育に利用したことから強い影響を受けている。

『修身童話』第1巻の自序で、樋口はグリム童話について「グリムの昔噺が尋常小學一年級の修身教授教材として」¹⁰児童の理解に適していると明記している。つまり、グリム童話を文学ではなく昔噺と表現し、修身教授材料として捉えていたことが分かる。その後、桃太郎、猿蟹合戦、花咲爺等をグリムの童話と比較し、我が国の昔噺も教材にしようと考えたと述べている。¹¹こうした試みについて、校閲者の一人である谷本富も、昔噺が教育材料として最も児童の天性に適応するという意見は学者の中でも概ね一致していて、樋口の『修身童話』こそ初めての「教育應用昔ばなし」だと第1巻のはしがきで評価している。¹²これは、当時巖谷小波が出版した日本昔噺やグリム童話翻案を意識した発言であった。巖谷小波はお伽噺を子供が楽しむ娯楽的な読み物と捉え、創作や翻案を行っていた。

では、樋口や谷本が述べた昔噺の教育応用の目的は何か。教育の目的を谷本富は「主として児童の徳性を練磨するにあり」¹³とし、樋口勘次郎は「徳性を涵養するを旨とすべし」¹⁴と述べている。両者は昔噺から引き出される教育目標に徳性育成を置いている。つまり、あくまで樋口にとってグリム童話は修身教授教材として意義あるものであって、文学ではない。この目的に則り、『修身童話』全巻で本文欄外に注釈が記入されている。注釈は、樋口や湯本が倫理上の内容を分析して付けたものである。また、第1巻では本文にも倫理上意味があ

る箇所と倫理上主眼となる箇所に印がつけられている。¹⁵

このように樋口と谷本が修身教材だと豪語しているにもかかわらず、第1巻以降の序文では昔噺が如何に修身に適しているかを知らしめるのに終始している。昔噺は取り留めの無い出鱈目な作品であるため児童に適さないという批判と昔噺は修身に向いていないという二つの批判が、当時の一般的な意見であった。以下に引用する第5巻の序は、昔噺の教育的利用に対する批判への樋口の回答であったといえる。

昔噺を荒唐虚誕なりとして、排斥する者は、詩と理學との區別を知らざるものなり。昔噺は兒童の詩なり。

昔噺は質朴無邪氣にして理解志易き理想を與へて、兒童に善を勧むる者なり。昔噺は兒童の修身學なり。¹⁶

つまり、昔噺を教材とすることに批判がある中で、樋口は修身教授に利用しようとした。しかし、理解されないため何度も昔噺の教育的価値について言及しているのである。その教育的価値は、樋口が第1巻の序で述べたツィラーやライン等のグリム童話利用に関する価値評価そのままである。グリム童話に当てられた価値を日本昔噺に置き換えている点に、当時の修身教授には無い斬新さがあったと考えられる。ヘルバルト派がグリム童話に見出した価値を樋口は受容したのである。グリム童話が西洋の童話であるにもかかわらず、『修身童話』に掲載された所以もここにある。

しかし一方で、樋口は修身教材として昔噺が完全ではないことにも気付いている。第6巻で「昔噺教授上の注意」¹⁷というものがつけられた。ここでは、教師自身が自ら感動し喜怒哀楽を持って児童に伝えなければならないと書かれている。その上で、全ての昔噺の全ての部分に倫理的な意味を付会することはないと教師に注意している。この注意は、昔噺に倫理的な意味を追求すれば、非倫理的な箇所が出てくると認めているとも言える。同じ第6巻冒頭に「昔噺の教育的価値」¹⁸がある。ここでは、昔噺が理想を養成し、昔噺が与える倫理が児童の理解力に適していると、あたかも完全であるかのように書かれ、「昔噺教授上の注意」での注意点と相反している。このような点から、『修身童話』は修身教材として賞賛されながらも矛盾を含んでいたと言える。この矛盾を実際のテキストで樋口がどのように扱ったのか。この点を検討する前に、まず次の節で『修身童話』の種本である『小學校 教授の實際 第一學年の部』における童話の教育的利用について検討する。

3-2 ツィラーやラインのグリム童話の使用

1887(明治20)年、日本政府の働きかけでハウスクネヒト(Hausknecht, Emil: 1853~1927)がドイツから日本へ招聘された。¹⁹来日後、東京帝国大学文科大学にて英語で教育学の講義を行い、その実習でライン、ピッケル、シェルレル共著の“Das erste Schuljahr”を使用したといわれている。²⁰1898(明治22)年には教育学科特待生を設けてヘルバルト主義の教授法を教えたとされ、特待生の中に『修身童話』校閲者である谷本富がいた。この“Das erste Schuljahr”という指導書に、グリム童話を使った授業案が多数掲載されていた。つまり、明治20年に東京帝国大学文科大学で使用されたことで、グリム童話は教育材料に適した童話として認識されたのである。

“Das erste Schuljahr”²¹は、樋口の述べた「チルレル、ライン等の夙に唱導せる」²²(下線は原典そのまま)という書物に当たる。では、樋口が述べたヘルバルト派のグリム童話利用とはどのようなものだったのか。この点を論じるために、本論では『修身童話』とほぼ同時期の1902(明治35)年に出版された“Das erste Schuljahr”の翻訳『小学校 教授の実際 第一學年の部』²³を取り上げて、樋口が言う「ライン等」²⁴の主張として提示する。この本は、当時の日本の教育者たちの“Das erste Schuljahr”に対する理解度を表す翻訳だと考える。

『小学校 教授の実際 第一學年の部』は非常に厚い本で、第一学年における情操教育、美術教授、唱歌教授、読み方及び書き方、理科(自然科)、算術といった教科が挙げられている。教科ごとに、実践的な例を交えて指導の説明がなされている。ここで重要な点は、これら全ての題材は14話のグリム童話から発展するという形式になっているということである。²⁵

では、なぜ全ての基本となる童話がグリム童話なのだろうか。まずヘルバルト派のワイツ氏が「童話が心情を陶冶するに必要なこと」(以下、全ての引用の傍点は原典そのまま)と言い、チルレル教授によって初めて「グリム」の童話の、或一組の材料が、第一學年の情操的教材とするのに適當せり」と証明されたとこの本には書かれている。²⁶チルレル(ツィラー)は第一に童話は児童の個性に最もよく適合しているといい、「昔或所に」という言葉が表すように童話は人物や地名だけでなく「空間的にも時間的にも」限定されないため、「児童は、長く子供らしき状態を保ち、喜びを以て童話を注意し、且つ之を信じ之を追求するのみならず、現實世界の條件を意に介せざる」ものであると述べている。²⁷一方で、児童は客観的に悟性に適った概念や原則、審美的及び倫理的な概念や原則を含む。童話を教授しながら概念を捉え、厳密に悟性に適うよう取り扱えば、児童が経験を積むに従って童話が実際の話ではないことも理解する。そして、「結局、児童の思想中に、或る理想的の方針を與へ」て精神にも高尚な

る方向を示すことができるのだと述べられている。²⁸

童話が選ばれた理由はこのように説明されているが、グリム兄弟の童話を選ばれた理由は明記されていない。ただし、「国民童話」²⁹という節のタイトルからグリム童話が国民童話として意識されていたと考えられる。次の引用もそれを裏付けている。

吾人の所謂童話は、實に我が獨逸の國性を反映せる我が獨逸の童話なる點よりしては、國民的萌芽を修養せしむることゝ、自然及人事界の國民的理解法を永久刷新すること……（以下省略）……（傍点は原典では○）³⁰

つまり、グリム童話に求められたことは、獨逸国民特有の理解方法を永久刷新することであった。ヘルバルト派のグリム童話には、文学的な評価は見られない。グリム童話はあくまで第一学年の教材である。ここで重要な点は、児童が第三学年以上になると教材が聖書物語になることである。『小學校 教授の實際 第四學年』にも示されているように、第三学年及び第四学年では聖教史と普通歴史という二つの歴史を習う。³¹『小學校 教授の實際 第一學年の部』で一番の議論となったのは、宗教教授や聖書物語をどの学年で教えるべきかという問題であった。そして、ある程度理解できる高学年の児童に教えるべきだという概ね一致の結論が出ていた。しかし、その前段階である第一学年で何を教材にすればよいかが新たな問題として浮上した。そこで注目を集めたのがヘルバルト派の童話利用であり、ツィラーがグリム兄弟の童話に限定したのである。ここから分かることは、ヘルバルト派が言う倫理的に導くという考え方の根底には、宗教教授が存在するということである。この倫理観は、『小學校 教授の實際 第一學年の部』の授業案にも影響を与えている。

では、具体的にグリム童話14話にヘルバルト派はどのような教訓を付けたのか。次にいくつか例を挙げる。³²「見鳥（KHM51）」（『小學校 教授の實際 第一學年の部』p.49-72 以下、この本に関してはページ数を本文中に示す。）は「不憫な人を助けよ／よい子は人に親切／姉妹は仲よく／神は信心なる善き人を助く」（p.60, 72）、「狼と七匹の子山羊（KHM5）」（p.73-88）は「神は吾等を守り給ふものなり（傍点そのまま）／不正をなすものよりは、不正を仕向けられたる方が、寧ろ優れり／嘘を言ふな／良心の言ひ付けを守れ／惡事を働けるものは、罰らるゝは當り前のことなり、惡しきことをなす勿れ、然らば、汝に惡しきことが到來せざる可し」（p.77, 82, 87）、「紅井帽子（KHM26）」（p.88-98）は「汝自ら邪道に陥る勿れ／正しき道をはなるゝな」（p.95）、「ホルレー夫人（KHM24）」（p.98-105）は「汝、怠惰なるものよ、蟻の許に行いて、蟻

の仕事を見習へよ／働かうと思はぬ人は、食うてはならぬ／祈れ、且つ働け」(p.104)、「無頼漢 (KHM10)」(p.105-117)は「大言^{大言}をふく丈けでは何にもならぬ、大言のみで事が出来るなら、乞食が王になることも造作なきとなるべし／がらにもなき事を企つる勿れ／天罰を遁れることは出来るもんぢやないのです」(p.112, 117)。

このように、教訓は罰を下す神への祈願文の形で持ち出され、聖書の精神が色濃く反映している。また教師と児童の対話部分でも「神様」という言葉が何度も登場し、その場で祈ることさえある。先に述べたように、ヘルバルト派は宗教教授や聖書物語教授を行うための基盤としてグリム童話を利用しているため、一貫して宗教的な教訓がグリム童話に付会されていることが分かる。ここでは、主人公が自らの間違いによって窮地に陥るも神によって救われる。また、悪は天罰を受けるという構図が説明されている。このように宗教的な倫理観によって利用されたグリム童話を、樋口勘次郎はどのような解釈で翻訳したのだろうか。次に、『修身童話』に掲載されたグリム童話翻案について分析を行う。

3-3 『修身童話』におけるグリム童話翻案と注釈

ヘルバルト派のグリム童話の選出と提示順序には、三つの配列の型がある。『小學校 教授の實際 第一學年の部』の言葉で言うと、ツィラーの「ライプチヒの排列」、ラインによる「アイゼナッハの排列」と「エナの排列」である。³³これらの配列は、童話の導入順序や数話の童話に違いがある。最終的な配列はラインによる「エナの排列」で、『小學校 教授の實際 第一學年の部』に採用されている。

樋口が採用した『修身童話』のグリム童話12話は、三つの配列から無作為にグリム童話を採用している。第1巻「おおかみと、こいぬとのはな志 (KHM51)」(『修身童話』第1巻p.1-39 以下、この本に関しては巻とページ数を本文中に示す。)、第2巻「ほ志のかねこ (KHM153)」(第2巻p.1-38)、第3巻「くまき志^志がつせん (KHM102)」(第3巻p.1-37)、第4巻「こかねひめ またのな 志んはせひめ (KHM24)」(第4巻p.1-39)、第5巻「ふくのかみ (KHM87)」(第5巻p.1-26)、第6巻「おくびよとおおぞく (KHM27)」(第6巻p.1-29)、第7巻「おおかみときつねのはな志 (KHM73)」(第7巻p.1-44)、第8巻「おてんばまめ (KHM18)」(第8巻p.1-32)、第9巻「ならずもの (KHM10)」(第9巻p.1-42)。以下、第10巻「物奥姫」、第11巻「酒徳利(甘粥)」、第12巻「見出鳥」は出版されず、刊行予告にタイトルが存在するだけである。³⁴グリム童話にも、欄外に倫理上の注釈がつけられている。³⁵

修身を端的に表す童話の構図に、因果応報と勧善懲悪という二つがある。例えば、第1巻「おおかみと、こいぬとのはな志 (KHM51)」では子犬を食べた狼が最後に溺れ死んでしまうことに対して「因果應報」(第1巻p.53)という注釈がある。また第2巻「は志のかねこ (KHM153)」では、主人公の女の子が貧しいにもかかわらず他人に施しを行うことが慈愛や仁慈とされ、最終的に天から金貨が降ってくることで「應報」(第2巻p.45)となっている。第5巻「ふくのかみ」(KHM87)は善い人と悪い人が登場し、「善き人には善き事あり」(第5巻p.34)という因果応報となっている。第4巻「こかねひめ またのな 志んはせひめ (KHM24)」も因果応報を含んでいる。これらの童話の共通点は神様など超自然的な存在からの恩恵で、ラインから樋口の翻案に引き継がれた点であると言える。³⁶

しかし、『修身童話』のグリム童話の注釈を追っていくと、因果応報や勧善懲悪といった構図を成していないものが多いことが分かる。第3巻「くまき志がつせん (KHM102)」は、突然雉が自分の頭に冠があることから鳥類の王であると言出し御殿を建てる。それを見た熊が悪口をいったため、雉の軍と熊の軍で合戦になるという話である。この話の場合、修身に関する注釈は一切無く、最後に強いものにも謀で勝てる／弱いものでも侮ると負けるという教訓が書かれているだけである。³⁷単なる合戦の心得であり、因果応報でもなく、また勧善懲悪の世界でもない。この原因は、グリム童話の登場人物である雉と熊が明確な善でも悪でもないことにあると考えられる。ただし、この童話からラインらがどのような教訓を得ていたのかは分からない。なぜなら、『小學校 教授の實際 第一學年の部』で使用された「エナの排列」からこの童話は削除されている。

第4巻「こかねひめ またのな 志んはせひめ (KHM24)」は全く注釈が無く、第9巻「ならずもの (KHM10)」の注釈にも教訓的な文言がない。特に、第9巻「ならずもの (KHM10)」では、悪事を働いた雄鶏が宿に泊まりお金を払わずに逃げていくという話で、樋口の翻案を読むと全く罰を受けずに済むという結論になっている。しかし、ラインは「アイゼナッハの排列」と「エナの排列」の配列で「ならずもの (KHM10)」の後に「雌鶏の死 (KHM80)」という話を必ず配置している。「ならずもの (KHM10)」の後に置かれた「雌鶏の死 (KHM80)」で、雄鶏は妻である雌鶏を亡くすという罰を受けるのである。樋口は、「ならずもの (KHM10)」だけを翻案しているため、因果応報や勧善懲悪から外れてしまっているのである。ここに、樋口の配列に対する理解の低さが窺えるのである。

また、ラインのグリム童話の配列では、狼が一貫して悪い役割を担う登場人

物として描かれている。そのため、狼が出てくると既習の童話から狼の悪事を思い出させ、注意を促すのである。例えば、第7巻「おおかみときつねのはな志 (KHM73)」では狐も狼も盗みを働き、両者は悪のように見える。ラインのグリム童話では、狼が悪い動物として定着していることから狐が逃げたくて仕方が無いことが強調されている。そして、ヘルバルト派の教訓として「不正をなすよりも不正を受くるものが、一層善なり」³⁸という考え方があり、狼のために盗みを働く狐の悪を弱めているのである。この教訓は「狼と七匹の子山羊 (KHM5)」の中でも見られ、「不正をなすものよりは、不正を仕向けられたる方が、寧ろ優れり」³⁹とされている。しかし、このような注釈は『修身童話』にはみられない。第7巻「おおかみときつねのはな志 (KHM73)」では、口腹の奴隷は身を損ず／口腹の主人は身を助くという全く違う注釈がつけられ、食欲に溺れた狼と適度な食欲だった狐の対比となっているのである。⁴⁰この対比の構図では悪事を働いたという点で両者は同じと言え、狐だけが狡賢さから逃げ延びたというようになっている。

第6巻「おくびよおとおぞく (KHM27)」は、有名な「ブレーメンの町の音楽隊」なのだが、内容としては大きく翻案されている。年を取り主人から捨てられそうになった馬が逃げ出し、東京は仕事に困らないと聞いたので東京へ出て音楽隊に入ろうとする。この考え方は「此の馬はよく考へたり」(第6巻p.30)と善いものとされ、次に会う犬や猫たちがどうしようかと悩んでいることと対比して馬が正しい考え方だと強調される。この童話の最後の方の注釈では、「如何なる時にも失望せず、自ら己の職業を求むべし」(第7巻p.41)となっている。これは、若者の東京に対する憧れを喚起している。当時の東京への若者の出稼ぎという時代的な背景に呼応する教訓であるといえる。⁴¹

つまり、樋口のグリム童話には、神による保護と因果応報、騙すより騙される方が善であるといったラインのような一貫した解釈がない。元々、ラインは神の保護という考えを軸にグリム童話を選び採用しているため、善が悪を倒すというよりも神の判断によって天罰が下るという因果応報の構図をとる傾向が強い。それに対して、樋口のグリム童話翻案では神の存在はほとんど消えていて、因果応報の辻褄が合わない話もあり、悪が善によって倒されるという勧善懲悪の構図も少ない。その上、樋口がグリム童話につけた修身上の注釈は独自の解釈となっていて、教訓の内容の幅が広い。巻を重ねる毎に注釈の指し示す内容が増えていったため、『修身童話』のグリム童話の注釈には一貫性がないのである。

3-4 『修身童話』における日本昔噺と注釈

ここでは、『修身童話』のグリム童話と比較を行うため、『修身童話』の日本昔噺とその注釈について考察を行う。樋口勘次郎が『修身童話』として選んだ昔噺は、第1巻「桃太郎」(第1巻p.1-39)、第2巻「花咲爺」(第2巻p.1-38)、第3巻「猿蟹合戦」(第3巻p.1-37)、第4巻「松山鏡」(第4巻p.1-39)、第5巻「舌切雀」(第5巻p.1-26)、第6巻「勝々山」(第6巻p.1-29)、第7巻「狐の手柄」(第7巻p.1-44)、第8巻「瘤取爺」(第8巻p.1-42)、第9巻「大江山」(第9巻p.1-42)、以下未刊行でタイトルしか分からない第10巻「物臭太郎」、第11巻「浦島太郎」、第12巻「大黒様」である。

刊行された全9巻について分析を行うと、これらの話の全てが善と悪の対立となっていることが分かる。善が悪を倒すという勧善懲悪の対立をとるのは第1巻「桃太郎」、第3巻「猿蟹合戦」、第6巻「勝々山」、第7巻「狐の手柄」、第9巻「大江山」、善い人と悪い人の対立である因果応報は第2巻「花咲爺」、第5巻「舌切雀」、第8巻「瘤取爺」である。

勧善懲悪の構図である第1巻「桃太郎」、第3巻「猿蟹合戦」、第6巻「勝々山」、第7巻「狐の手柄」、第9巻「大江山」は、全ての昔噺で悪者が死ぬという結果で話を結んでいる。その上、この5巻の内「猿蟹合戦」「勝々山」「狐の手柄」の3巻が仇討ちとなっている。この善が勝つという構図に、神は出てこない。唯一神が登場する例外として、刊行された最終巻である第9巻「大江山」で「神は誠忠なる人を助く」(第9巻p.19)と注釈がつけられ、「石清水八幡宮」(第9巻p.13)の保護が明記されている。

また、因果応報の構図を持つ第2巻「花咲爺」、第5巻「舌切雀」、第8巻「瘤取爺」での善い行いとは信心深さではなく、気前よく人に物を貸すこと、犬やスズメを可愛がること、欲張らないことを指している。悪に対する罰については、「勝々山」で「てんとおさま」が許さないという視点は出てくるが、グリムのように祈りの対象で応報を与える神は出てこない。

第4巻「松山鏡」は純粋な心である親孝行の娘とねじけた心を持つ継母が対となっているが、この話は先に述べたように樋口勘次郎の案ではなく小西信八による寄稿であった。「松山鏡」は最終的に継母が改心するため、因果応報でも勧善懲悪でもない。つまり、小西信八の第4巻「松山鏡」を除き、他全ての昔噺が勧善懲悪か因果応報という構図に収まることがわかる。

『修身童話』の日本昔噺につけられた注釈は、非常に多く詳細である。その中で、勉強、應報、夫婦や親子の情や相和、親孝行、義侠といった項目が何度も出てくることは注目に値する。この繰り返される注釈は、1890(明治23)年の教育勅語をはじめとする政府による修身に関する指針によるものと推測でき

る。それ以外のものは樋口がつけた独自の注釈といえる。ただし、前に挙げた府川源一郎の論文で、樋口が子供たちの好きな話の調査を行っていることが指摘されている。⁴²このことから、日本昔噺の選出基準については、一概に教育勅語に合わせて選ばれたという訳ではないと考えられる。選ばれた日本昔噺の構図や特徴から、夫婦や親子の情や相和、親孝行という倫理上の注釈が繰り返されたともいえるのではないか。『修身童話』に採用された日本昔噺には、桃太郎を拾った老夫婦を含めて全9巻中5巻に老夫婦が登場する。また、4巻でも話の中心は親子になっている。このように、『修身童話』の日本昔噺は因果応報と勧善懲悪という大きな構図のどちらかに属していて一貫性がある上、樋口の注釈にも一貫性がみられるのである。

3-5 日本昔噺とグリム童話のズレ

これまで『修身童話』のグリム童話と日本昔噺について考察してきた。ここでは両者を比較することで『修身童話』におけるズレを明確にしていく。

樋口はどのような基準で、日本昔噺1話とグリム童話1話を対照させたのだろうか。第2巻に掲載された『修身童話』の予告で、次のように徳目が挙げられている。⁴³

- 第1巻「桃太郎」「狼と子犬」／忠孝、大志、公益、義勇、奉公等
 - 第2巻「花咲爺」「星野金子」／博愛、空欲（恭儉）報恩、因果應報等
 - 第3巻「猿蟹合戦」「熊雄合戦」／孝行、信實、義勇、因果應報等
 - 第4巻「松山鏡」「新長谷姫」／慈愛、孝行、從順、至誠動人等
 - 第5巻「舌切雀」「福の神」／博愛、空欲（恭儉）報恩、因果應報等
 - 第6巻「勝々山」「臆病盜賊」／夫婦親和、信義、因果應報等
 - 第7巻「狐の手柄」「大食い狐と狼」／信實、空欲（恭儉）深謀、遠慮、擇友等
 - 第8巻「瘤取爺」「おてんば豆」／知分（恭儉）習業等
 - 第9巻「大江山」「無頼漢」／尊王、公益、義勇、深謀、遠慮等
 - 第10巻「物臭太郎」「物臭姫」／勤勉、立志積善、改過、修學等
 - 第11巻「浦島太郎」「酒德利（甘粥）」／博愛、報恩、禮敬、守約、忍耐等
 - 第12巻「大黒様」「見出鳥」／友愛、從順、博愛、謙讓、擇友等
- （傍点は原典そのまま）

この傍点について説明はないが、これらが教育勅語と合致する徳目であると推測できる。つまり、樋口の独自の注釈と教育勅語の徳目が混在していることがわかる。付録のグリム童話については、「附録は可成本文と同趣意のものをあ

つめた積もり。」と書かれている。⁴⁴つまり、無作為に選び日本昔噺と対照させたのではなく、樋口が同趣意と考えたグリム童話が各日本昔噺に付録としてつけられているのである。

これは、樋口がツイラーの「ライブチッヒの排列」やラインによる「アイゼナッハの排列」と「エナの排列」という三つの配列から不規則にグリム童話を選んでいる理由であると考えられる。樋口は、まず日本昔噺に主眼を置き『修身童話』における順序を決め、その後、付録として併載するグリム童話をヘルバルト派の三配列からそれぞれ選び出した。その判断は、ヘルバルト派が重視したグリム童話の導入順序ではなく、日本昔噺の趣意と一致するかどうかという点であった。そのため、ツイラーとラインの配列と照合した場合、樋口のグリム童話は規則性が無くばらばらと選出されているように見えるのである。

『修身童話』は出版が遅れがちであったことから、上に引用した第2巻の予告に見られる徳目は実際にグリム童話翻案や注釈を書く前に決めたものだと考えられる。そこで、これまでの考察を踏まえ、これらの徳目と実際のグリム童話につけられた注釈を対照してみる。一致している項目は、第2巻「ほ志のかねこ」は博愛、窒欲（恭儉）報恩、因果應報、第3巻「くまき志`が`つせん」は義勇のみ、第5巻「ふくのかみ」は博愛、窒欲（恭儉）報恩、因果應報だけで、その他の巻においては徳目と一致していない。つまり、樋口が「可成本文と同趣意のもの」としたグリム童話は、徳目としては日本昔噺と同じ趣意ではないことが分かるのである。樋口は、グリム童話を選ぶ段階で単に「合戦」が一致することや狐が登場し盗みを働くというようなプロットの一致だけに目を奪われ、ラインらの配列に対する理解を無視して選んでいたのではないか。現在の時点からみれば、樋口が並べた日本昔噺とグリム童話は、主人公の性別や動物の一致、また合戦や盗みというようなプロットの一致以外には共通点を見出せないと言えるのである。

また、日本昔噺では修身教材として生徒の手本となる人物が全ての巻に登場している。しかし、グリム童話で善い手本となるのは、厳密にみれば第2巻「ほ志のかねこ」の星野金子、第4巻「こかねひめ またのな 志んはせひめ」のこがねひめ、第5巻「ふくのかみ」の貧乏な人だけで、全9巻中3巻しか指摘することができない。これは『修身童話』の日本昔噺とグリム童話の構造自体に大きなズレが生じていることの現れである。前の節で、『修身童話』の日本昔噺は全て因果応報や勧善懲悪という構図にあてはまると指摘した。これは必ず善い人が登場するという結果を生み出している。そのため、日本昔噺には一貫性があり、修身教材として安定していることが分かる。逆に、グリム童話は巻を経る毎に修身性が消えつつある。

つまり、元々、ヘルバルト派はグリム童話の原典にはない説明や解釈を付会した。それは宗教を基本とする独自のもので、その解釈によってヘルバルト派の教訓的童話は成り立っている。樋口は、ラインらのグリム童話利用の方法を受け継ぐが、解釈は受容せずに樋口独自の徳目や注釈をいれた。一方、樋口の日本昔噺には一貫した徳目がつけられた。その上、勧善懲悪や因果應報という明確な構図を持つことで構図自体も徳目や注釈を補強している。しかし、樋口のグリム童話は日本昔噺と併載されることで日本昔噺とは違う構図を持つことが明らかとなり、樋口の注釈を補強できていない。樋口の注釈自体もグリム童話を説明できていない。ヘルバルト派は品性育成教材として、樋口勘次郎は修身教材として、グリム童話を掲げた。だが、樋口勘次郎は修身教材としてグリム童話を生かすことができなかったといえるのである。

4. まとめ

『修身童話』のグリム童話と日本昔噺を比較することで明らかになったことは、樋口が取り上げた日本昔噺は全て因果応報や勧善懲悪という構図を持っているということであった。しかし、同時に編集されたグリム童話は、樋口が刊行予定で挙げた徳目にも一致していない。その上、実際に出版された日本昔噺とグリム童話の内容や注釈を比較してみても、半数以上の巻で両者の徳目は不一致であった。

このズレの原因の一つに、グリム童話を教育に取り込んだツィラーやラインといったヘルバルト派の解釈基準である倫理観を指摘することができる。『小學校 教授の實際 第一學年の部』の中で示された実際のグリム童話教授からは、倫理の後ろには常に神の存在があるということが読み取れた。樋口は、日本昔噺の趣意を念頭にグリム童話を選んでいるため、『修身童話』のグリム童話からは宗教性や神の存在が欠如しているのである。結果、樋口のグリム童話は明確な善悪が提示できていない上、樋口による注釈も一貫性の無いものとなっている。

逆に、日本昔噺は巻を経る毎に注釈や徳目について一貫性を高めてゆき、修身教授に適した日本昔噺を確立していったといえるのである。同時に、出版された全9巻を通してグリム童話と日本昔噺のズレは広がり、樋口はグリム童話を修身教材として利用することができなかった。この樋口の『修身童話』という試みと結果から、グリム童話が学校教育の修身教科書に残らなかった理由を見出すことができると言えるのではないか。『修身童話』は日本昔噺の修身化を

進めただけであり、逆に、グリム童話に関しては修身化の難しさが浮き彫りになってしまった出版物であるということができるのである。

5. おわりに

明治20年代後半、グリム童話はヘルバルト派を経由した受容によって修身教材とされた。これを受け、樋口勘次郎は日本昔噺とグリム童話をセットにした教材を初めて実際の学校教育現場に送り出した。しかし、樋口はグリム童話を修身教材として生かせなかった。『修身童話』は、グリム童話を学校の修身教材にできなかった問題点を内包し、本論で考察した樋口の失敗にはグリム童話が修身に残らなかった原因が表れていると言える。

だが、この『修身童話』という試みは、同時代の人に大きな影響を与えた。1906（明治39）年に出版された橋本青雨訳『独逸童話集』では、序文で樋口自ら童話教授について解説を行っている。⁴⁵その後、1908（明治41）年の木村子舟訳『教育お伽噺』においてもラインの名前が明示され、修身教材として童話を用いることが評価されているのである。⁴⁶このように、グリム童話は学校教育から離れつつも、樋口の『修身童話』と同じ方向性を保ちながら確実に教訓的な読み物として残っていくのである。

注

- 1 グリム童話が最初に翻訳されたのは、1994年の時点では明治20年4月『神仙叢話（西洋古事）』菅了法訳（集成社書店）であると考えられていた。（野口芳子『グリムのメルヘン—その夢と現実—』勁草書房 1994年）しかし、2005年のグリム童話翻訳年表で、明治19年4月の日本ローマ字会『ROMAJI ZASSHI（ローマ字雑誌）』『羊飼いの童』（KHM152）カタヤマキンイチロウ訳に修正された。（川戸道昭・榊原貴教編『児童文学翻訳作品総覧 第四巻（フランス・ドイツ編2）』ナグ出版センター 2005年）

また、2008年発表の論文によれば、明治6年に出版された翻訳啓蒙書2冊にグリム童話が存在するという。これらはアメリカの英語教科書を材料にした啓蒙書で、グリム童話が1話翻訳されている。（府川源一郎「アンデルセン童話とグリム童話の本邦初訳をめぐって—明治初期の子ども読み物と教育の接点—」『文学』隔月刊 第9巻・第4号 岩波書店 2008年

p.140-151) このように、現在も資料発掘が行われている。

- 2 以下の文献に発見されたグリム童話のリストがある。

川戸道昭・榊原貴教編『明治期グリム童話翻訳集成』1-5巻 ナダ出版センター 1999年

川戸道昭・榊原貴教編『児童文学翻訳作品総覧 第四巻（フランス・ドイツ編2）』ナダ出版センター 2005年

- 3 樋口勘次郎は、1900（明治33）年から3年間留学していた。そのため、7巻から9巻は湯本武比古による日本昔噺とグリム童話翻案となる。湯本は、7巻前書きで樋口が留学したため引き継いだと述べている。ただし、全12巻の内容は既に第2巻の時点で決定されていることから、樋口勘次郎が本の構成を決めたと考えられる。また、本稿で使用する童話／昔噺という単語は、樋口の使い分けをそのまま使用する。樋口は別の著書で巖谷小波の「日本昔噺」について言及しているため、昔噺という語にはその影響があると推測する。

- 4 川戸道昭・榊原貴教編『明治期グリム童話翻訳集成』1-5巻 ナダ出版センター 1999年

川戸道昭・榊原貴教編『児童文学翻訳作品総覧 第四巻（フランス・ドイツ編2）』ナダ出版センター 2005年

- 5 府川源一郎「樋口勘次郎と『修身童話』」『国語教育史研究』第2号 国語教育史学会編集 2004年 p.3-13

府川源一郎「樋口勘次郎とグリム童話」『横浜国大国語教育研究』第20号 2004年 p.1-30

この二つの論文では、『修身童話』第8巻のグリム童話翻案「おてんばまめ」は樋口勘次郎が翻案者となっているが、湯本武比古の間違いである。つまり、第7巻以降は湯本が日本昔噺とグリム童話翻案を書いた。

他の先行研究では、『修身童話』について深い言及はされていない。多くの場合、「グリム童話を教育的意図で紹介した」と一言で説明されている。例えば奈倉洋子は、樋口がツィラーらのカリキュラムを見て、「樋口はそれに学び、修身の教材として日本の昔噺を選び、それを中心教材に据えた。日本の昔噺がグリム童話に相応すると考えたからだ。」と述べるに留まる。

奈倉洋子『日本の近代化とグリム童話』世界思想社 2005年 p.18

- 6 海後宗臣『海後宗臣著作集 第六巻 社会科・道徳教育』東京書籍 1981年 p.516

- 7 樋口の名前があるのは第1巻から第6巻までで、第4巻の序と日本昔噺

「まつやまかがみ」は小西信八が寄稿したものである。小西信八は、『修身童話』に同調して「まつやまかがみ」を寄稿することを提案してきた読者である。第2巻の序で、樋口は小西について「東京盲啞學校長」と紹介している。

- 8 樋口勘次郎『修身童話』第1巻小引 開發社 明治31年 p.10

- 9 今回は、一つ目の修身教材に論点を置く。

二つ目の綴字法については、まだ日本語表記が統一されていなかったという当時の背景が関わっている。国語をどんな文字表記で統一するのかという議論や運動があり、『修身童話』においても文字表記は全ての巻で若干の変更が行われている。『修身童話』から具体例を挙げると「し」は「志」と表記され、「じ」は「志」+「ゝ（濁点）」で「志ゝ」となっている。当時の国語表記の運動や問題については、次の文献等を参照されたい。

イ・コンスク『「国語」という思想』 岩波書店 1996年

- 10 樋口勘次郎『修身童話』第1巻 自序 開發社 明治31年 p.5

- 11 樋口勘次郎『修身童話』第1巻 自序 開發社 明治31年 p.5

- 12 樋口勘次郎『修身童話』第1巻 はしがき／谷本富 開發社 明治31年 p.1-4

- 13 樋口勘次郎『修身童話』第1巻 はしがき／谷本富 開發社 明治31年 p.1

- 14 樋口勘次郎『修身童話』第1巻 自序 開發社 明治31年 p.8

- 15 昔嘶本文に傍点として印がつけられている。具体的には、倫理上意味がある箇所には傍点○、倫理上主眼となる箇所には傍点◎がつけられている。これ以外にも理科的知識の主眼には△等がある。しかし、本文を読む際に邪魔だという意見があり、後の巻ではこの傍点が削除される。本論の引用に様々な傍点があるのは、このような理由からである。

- 16 樋口勘次郎『修身童話』第5巻 序 開發社 明治32年 p.1

- 17 樋口勘次郎『修身童話』第6巻 開發社 明治33年3月 p.7

- 18 樋口勘次郎『修身童話』第6巻 開發社 明治33年3月 p.1

- 19 1890（明治23）年、帰国する。短期間の滞在だったが、彼が教授したヘルバルト主義の教育学は、日本の教育界に大きな影響を与えたという。これは現在の教育学学界ではほぼ定説となっている。

- 20 日本におけるヘルバルト派経由のグリム童話受容に関しては、既に先行研究で中山淳子が指摘している。中山淳子の言う『第一学年』という書物は、本論で取り上げる“Das erste Schuljahr”である。中山淳子によれば、『小学校教授の理論と実際』全八巻の中の第一巻で、小学校一年生担当の教員向

け指導書であるという。また、「狼と七匹の子山羊」が多く翻訳されているのはこの書物の影響であると指摘している。

中山淳子「グリム十四話—明治教育の原典」『児童文学翻訳作品総覧第四巻【フランス・ドイツ編】2』ナダ出版センター 2005年 p.487-524

- 21 樋口勘次郎がヘルバルト派を受容した経路については、明確になっていない。ただし、当時の教育界はヘルバルト主義に傾倒していたため、東京師範学校を卒業した樋口勘次郎もヘルバルト主義の影響を受けたことは当然のことであったといえる。
- 22 樋口勘次郎『修身童話』第1巻 自序 開発社 明治31年 p.5
- 23 (人名表記は原典そのまま) ウェー、ライン アー、ピッケル エー、シェールレル共著 波多野貞之助／佐々木吉三郎共訳 『小學校 教授の實際 第一學年の部』 同文館 明治35年
翻訳者の一人である波多野貞之助は、高等師範学校教授でドイツへ留学してイェナ大学教授であったラインから直接学んだ人物である。
- 24 樋口勘次郎『修身童話』第1巻 自序 開発社 明治31年 p.5
- 25 グリム童話を教授することで情操教育を行い、同じ童話を使用して読み方や書き方を教え、童話に関連した歌詞の唱歌を歌い、更には童話に登場した動物や自然から理科を導入していく。
- 26 (人名表記は原典そのまま) ウェー、ライン アー、ピッケル エー、シェールレル共著 波多野貞之助／佐々木吉三郎共訳 『小學校 教授の實際 第一學年の部』 同文館 明治35年 p.30
- 27 (人名表記は原典そのまま) ウェー、ライン アー、ピッケル エー、シェールレル共著 波多野貞之助／佐々木吉三郎共訳 『小學校 教授の實際 第一學年の部』 同文館 明治35年 p.31
- 28 (人名表記は原典そのまま) ウェー、ライン アー、ピッケル エー、シェールレル共著 波多野貞之助／佐々木吉三郎共訳 『小學校 教授の實際 第一學年の部』 同文館 明治35年 p.31-33
- 29 (人名表記は原典そのまま) ウェー、ライン アー、ピッケル エー、シェールレル共著 波多野貞之助／佐々木吉三郎共訳 『小學校 教授の實際 第一學年の部』 同文館 明治35年 p.24
- 30 (人名表記は原典そのまま) ウェー、ライン アー、ピッケル エー、シェールレル共著 波多野貞之助／佐々木吉三郎共訳 『小學校 教授の實際 第一學年の部』 同文館 明治35年 p.33-34
- 31 (人名表記は原典そのまま) ウェー、ライン アー、ピッケル エー、シェールレル共著 波多野貞之助／佐々木吉三郎共訳 『小學校 教授の實際

第四學年』 同文館 明治38年

- 32 例では『小學校 教授の實際 第一學年の部』に書かれている日本語タイトルを表示し、括弧内に筆者がKHM番号を記した。KHM番号はグリム童話の正式名称『子供と家庭の童話集』の最終版である第七版の番号で、高木昌之『グリム童話を読む事典』三交社 2002年を参照している。
- 33 (人名表記は原典そのまま) ウェー、ラインアー、ピッケルエー、シェールレル共著 波多野貞之助／佐々木吉三郎共訳 『小學校 教授の實際 第一學年の部』 同文館 明治35年 p.39-47
- 34 刊行予定であった3話は、ラインらの配列と対照すればタイトルからそれぞれKHM14、KHM103、KHM51であったと推測することができる。府川源一郎も「樋口勘次郎とグリム童話」の中で同じ推測を行っている。
- 35 全巻を通して、日本昔噺の注釈は文章で細かに説明されることが多いのに対し、グリム童話は一言で説明する注釈が多いことが分かる。
- 36 例えば、ラインは第1巻「狼と七匹の子山羊」で神は見捨てないという教訓を児童に提示している。
- 37 樋口勘次郎『修身童話』 第3巻 開發社 明治32年6月 p.49
- 38 (人名表記は原典そのまま) ウェー、ラインアー、ピッケルエー、シェールレル共著 波多野貞之助／佐々木吉三郎共訳 『小學校 教授の實際 第一學年の部』 同文館 明治35年 p.144-97 (ページ数、原典そのまま)
- 39 (人名表記は原典そのまま) ウェー、ラインアー、ピッケルエー、シェールレル共著 波多野貞之助／佐々木吉三郎共訳 『小學校 教授の實際 第一學年の部』 同文館 明治35年 p.82
- 40 湯本武比古『修身童話』 第7巻 開發社 明治33年6月 p.59
- 41 当時の若者の東京への移動や出稼ぎについては、次の文献を参照されたい。
神島二郎『近代日本の精神構造』 岩波書店 1961年
- 42 府川源一郎「樋口勘次郎とグリム童話」『横浜国大言語教育研究』第20号 2004年 p.1-30
- 43 樋口勘次郎『修身童話』第2巻 序 開發社 明治32年 p.3-4
ここでのグリム童話名は、第2巻の予告から引用している。これまで本論で使用してきたグリム童話名は実際に出版された時のタイトルであり、予告と多少の違いが見られるが全く同じものである。傍点は●、原点そのまま。
- 44 樋口勘次郎『修身童話』第2巻 序 開發社 明治32年 p.4
- 45 橋本青雨訳『独逸童話集』 大日本国民中学會 明治39年

46 木村子舟訳 『教育お伽噺』 博文館 明治41年

〈参考文献〉

- 樋口勘次郎『修身童話』 第1巻 開發社 明治31年10月
 樋口勘次郎『修身童話』 第2巻 開發社 明治32年3月
 樋口勘次郎『修身童話』 第3巻 開發社 明治32年6月
 小西信八『修身童話』 第4巻 開發社 明治32年11月
 樋口勘次郎『修身童話』 第5巻 開發社 明治32年12月
 樋口勘次郎『修身童話』 第6巻 開發社 明治33年3月
 湯本武比古『修身童話』 第7巻 開發社 明治33年6月
 湯本武比古『修身童話』 第8巻 開發社 明治33年11月
 湯本武比古『修身童話』 第9巻 開發社 明治34年5月
 ウェー、ライン アー、ピッケル エー、シェルレル共著（人名表記は原典そのまま）波多野貞之助／佐々木吉三郎共訳 『小學校 教授の實際 第一學年の部』 同文館 明治35年
 海後宗臣『海後宗臣著作集 第六巻 社会科・道德教育』東京書籍 1981年
 川戸道昭・榊原貴教編『明治期グリム童話翻訳集成』 1－5巻 ナダ出版センター 1999年
 川戸道昭・榊原貴教編『児童文学翻訳作品総覧 第四巻（フランス・ドイツ編2）』ナダ出版センター 2005年
 中山淳子「グリム十四話—明治教育の原典」『児童文学翻訳作品総覧第四巻【フランス・ドイツ編】2』 ナダ出版センター 2005年
 奈倉洋子『日本の近代化とグリム童話』世界思想社 2005年
 野口芳子『グリムのメルヘン—その夢と現実—』勁草書房 1994年
 府川源一郎「樋口勘次郎と『修身童話』」『国語教育史研究』第2号 国語教育史学会編集 2004年
 府川源一郎「樋口勘次郎とグリム童話」『横浜国大國語教育研究』第20号 2004年
 文部省『学制百年史』 帝国地方行政学会 昭和47年